調査報告　繁殖期2022・③ 調査分析

2022 年 5 ～ 7 月に都内の 68 地点で実施した繁殖調査の結果について報告します。この調査では繁殖期に 2 回の観察を行い、確認した種は全国鳥類繁殖分布調査で使用しているのと同じ繁殖コードを使って繁殖状況を記録しました。総記録種は 115 種で、そのうち出現頻度が高かった種を〔表１〕に示します。

調査地を 23 区（33 地点）、多摩地域（29 地点）、奥多摩地域（6 地点）に分けると、平均種数はそれぞれ 18.8 種、25.1 種、31.2 種になりました。種数の最高は多摩川・羽村堰の 42 種でした〔図１〕。

	種名	地点数
1	シジュウカラ	67
2	ハシブトガラス	66
3	ヒヨドリ	64
4	ムクドリ	59
5	スズメ	56
6	キジバト	55
7	ツバメ	51
8	カルガモ	50
9	コゲラ	46
10	メジロ	45
11	ハシボソガラス	43
12	カワラヒワ	42
13	ドバト	42
14	アオサギ	39
15	ハクセキレイ	39
16	カワウ	36
17	ウグイス	33
18	カワセミ	32
19	オナガ	27
20	ガビチョウ	27

表１. 出現頻度の高い種

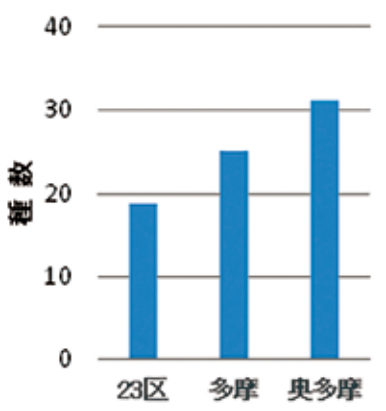

図１. 地域ごとの平均種数

種数が多い場所は、東京湾の埋立地、そして多摩川沿いと奥多摩にあり、水辺や森林が野鳥の生息地として重要なことが分かりました〔図２〕。水辺から離れた 23 区内の調査地には種数が少ない場所が多く、スズメ、メジロ、シジュウカラ、ヒヨドリ、カラス類のような普通種が主な構成種になっていて、夏鳥はツバメくらいしか見られませんでした。それに比べて種数が多い多摩川沿いの調査地では普通種に加えて、オオヨシキリ、セッカ、ホオジロといった草原性の小鳥類とサギ類などの水鳥類が記録されています。そして奥多摩の調査地ではさまざまな夏鳥を含む森林性の小鳥類が記録されています。

図２. 調査地の位置と種類　〔作成・神山和夫〕

「繁殖期 2023」調査の予定

今年の５～６月にかけて、これまでと同じ態勢で、繁殖期の調査を行います。海抜０㍍の東京湾岸から 2000 ㍍の雲取山までの本土部全自治体で実施します。数の少ない鳥の繁殖事例や観察がありましたら、研究部までお知らせください。